生徒一人ひとりが、人や事象と関わりながら、
視野を広げたり考えを深めたりする指導のあり方
～ 新聞に親しみ、新聞を作り、新聞で学ぶことを通して～

実践校第１年次　　長野市立東部中学校　　片山洋一　山下辰也　牛山英人

1　本校の生徒の実態と新聞活用を通して期待する生徒の姿

【本校生徒の全体的な様子】
○教師の指示をよく聞き行動できる
○生徒会や部活動への積極的取り組み
△まじめだが、受け身的な学習態度
△集団生活で周りを気にする生徒
△自信を持って自分の意見を言えない

【指導の実態】
○生徒の姿を見て明確な指示を出す
○学習、生徒会での綿密な計画
△教師主導の学習パターン
△計画が生徒の興味に沿っていない

【新聞を活用するという視点】
・自分の興味関心に沿った記事を取り上げる
・新聞記事を比較し、発信者の意図や受け取り方を考える
・新聞を作成し、自分の体験や考えをそれを通して発信する
・新聞記事を題材にして、お互いの意見を述べあう

【全校研究テーマ】　生きる力の育成「全教育活動を通して、生徒一人ひとりが自らの『生き方･あり方』を問い続けられる指導はどうあったらよいか。」

【総合的な学習の時間研究テーマ】　生徒一人ひとりが、人や事象と関わりながら、視野を広げたり考えを深めたりする指導はどうあったらよいか。

【手だて】
□記事集めを通して新聞に親しみ
□自分体験や考えを新聞作りを通して発信し
□新聞記事から学んだことをテーマに話し合うことで

【期待される生徒の姿】
○広く社会事象に興味や関心を持ち
○自分の伝えたいことを伝えたり、相手の考えを知ったりし
○話し合いの中で、コミュニケーションの力を伸ばすことができる

２　ＮＩＥで高めたい力

このような生徒が

・社会事象やニュースに関心が高い。
・与えたれた課題や活動にはまじめに取り組めるが、主体的に活動することが少ない。
・集団生活で周りを気にする。また、自信を持って自分の意見を言えない。
・学習したことをまとめるとき、自分自身のためのまとめになってしまい相手意識があまり見られない。

⇩

このような手だてで

・自分の興味関心に沿った話題や記事を取り上げる。
・自ら取り組む課題を見つけ、自ら設定した課題に取り組み、必要な情報を収集し、工夫してまとめる。
・社会事象について、ニュース、新聞記事を題材にして、お互いの意見を述べあう。
・新聞形式でまとめるとき、読み手を意識した工夫をしたり、興味を引く見出しを考えたりする。

⇩

こうなるであろう

・社会事象に視野を広げ、興味や関心を持ち、考えを深めようとする。

Ａ【自己の課題を把握する力】

・自ら設定した課題に、主体的に取り組むことができる。

Ｂ【課題を解決するための方法を構築する力、見返す力】

・テーマに沿った話し合いの中で、主体的に意見を言ったり、コミュニケーションの力を伸ばしたりすることができる。

Ｃ【課題解決に向かって追求する力】

・読み手のことを考えた表現を工夫して新聞を作ることができる。

Ｄ【学習したことを相手意識を持って工夫して発表したり、聞いたりする力】

Ａ～Ｄについては、単元の目標を参照

３　研究の概要

（１）実践した教科など

・総合学習　　・社会科

（２）新聞の提供状況

・生徒が最も通行する１階廊下にスチール戸棚を設置し、新聞ごと曜日ごとに分けて置いた。生徒は、その場で自由に読むことができるようにした。
・ある程度、たまったところで、プラスチックのボックスに入れ、第２会議室に保管。必

要に応じて使えるようにしておいた。
・教頭からの日報や、学級通信などで記事を紹介したり、生徒と関わりのあるものは印刷して配布したりした。

（３）新聞を取り入れた授業をする上で、特に工夫したこと
・取材をしたり、新聞形式で発信したりするための効果的な方法を新聞記者の方に実際に教えていただいた。
・発信にあたっては、自分が伝えたいことを持てるような単元展開を工夫した。
・経済の問題など、身近なトピックスを取り上げ興味関心を引き出すと共に、広く社会に目が向くように工夫した。

４　具体的実践の紹介
（１）新聞に載った１枚の写真から、平和について考える学習
（２）不況から脱する方法を、新聞の記事を元に自分なりに考え、ポスターセッションをする学習

５　実践学級の単元学習の報告から
（１）単元に行きつくまで
１学年では、総合的な学習における学年テーマを「発見」とし、主として自分たちのくらしている地域に実際に出かけてみたり、地域の方をお呼びして話を聞いたり等の活動を通して、新しい発見をしてそれを他学年や地域の皆さんに発信していこうという学習を仕組んでいる。１年時という発達段階を考慮して学級単位で行い、学級全体の興味関心に従って、各学級ごとのテーマに沿って追究をしていくという学習形態を採ってきている。

かがやきデーの時に、「あけぼの」で学習した「フィディアさん」に会うことができた１年６組の生徒たちは、直接フィディアさんにお話をお聞きする中で、人種差別に関わる問題や、人の考え方とその考え方を育む生活環境、宗教をよりどころとする生き方など、大きな驚きと様々な発見をした。

新聞記者から取材の仕方を学んだ６組の生徒たちは、フィディアさんのことや、フィディアさんから学んだことなど、自分たちの伝えたいことを新聞にまとめて発表し、学年全体に、差別や世界に今起きていることを投げかけたいと願った。

また、６組には、帰国子女の○○君が在籍し、日本語がよく話せないことを乗り越えて、学級長としてがんばっている。しかし、一方では言葉や生活習慣の違いによることに対して「偏見」があったり、「からかい」があったりもする。

今回、「総合的な学習の時間」の学習として、取材したり調べたりまとめたことを新聞にすること、新聞の記事から取材すること、お互いが作った新聞を見比べながら学習を広げていくことなど、新聞を通した学習で『人との関わりを通して学ぶ』ことを取り上げ、人や事象と出会う中で、視野を広げたり考えを深めたりすることを願い、本単元を設定した。

（２）つけたい力の決めだし
Ａ【自己の課題を把握する力】
ア：フィデアさんの体験談やテレビ番組から、フィディアさんの生き方に共感することが

できる。

イ：新聞記事やニュースなどから、人種差別問題への興味関心を高めることができる。

B【課題を解決するための方法を構築する力、見返す力】

ア：自分の課題を解決するためには何を調べたらよいか見通しを持つことができる。

イ：自分のまとめ方が読み手に伝わるかどうか見返すことができる。

C【課題解決に向かって追究する力】

ア：課題解決のために有効な資料を多くの情報の中から選択することができる。

イ：伝えたいことをグループで話し合ったり、自分の意見を言ったりできる。

ウ：友のよさを感じることができる。

D【学習したことを工夫して発表したり、聞いたりする力】

ア：調査した結果について、見出しや配列を工夫するなどして、読み手を意識したまとめをし、発表することができる。

イ：他グループの発表に耳を傾け、わかりやすくまとまっているかなどのアドバイスをすることができる。

（3）展開の概要

学　習　活　動	○ 支　援　・　◇評　価	ＮＩＥの視点	時
1　人種差別問題の実態を知ろう。 （人権同和教育）	○「あけぼの」を用い、現存する様々な差別の実態を理解させる。 ◇Ａ－イ	差別に関わる新聞記事を集める（親しむ）	1
2　総合的な学習の学級テーマを決めよう。	○アンケートを集計し、学級テーマを設定させる。 ◇Ａ－イ		2
3　新聞記者から取材の仕方を学ぼう。	○新聞記者を招き、取材にあたって大事なことや記事へのまとめ方を話してもらう。 ◇Ｂ－ア	新聞記者の思いを知る（学ぶ）	3
4　小林フィディアさんに会いに行こう。 （かがやきデー）	○近隣に住むフィディアさんに直接合って、実際に体験したことを話してもらう。 ◇　Ａ－ア、Ａ－イ		4 5 6 7
5　フィディアさんから学んだことをまとめよう。	○第１回かがやきデーでの感想やもっと知りたいことを新聞形式にまとめさせる。 ◇Ｄ－ア	新聞形式にまとめ文化祭に展示する。（発信）	8
6　さらに調べたいことを出し合い、自分の課題を決めよう。	○フィディアさんのテレビ番組から、さらに調べたいことを出させ、課題別のグループを編成する。 ◇Ａ－ア、Ｃ－イ、ウ		9 本 時
7　グループ毎に課題を解決するための資料をさがそう。	○新聞記事、図書館の本、インターネット等から必要な資料を収集させる。 ◇Ｂ－ア、Ｃ－ア	グループの課題を解決するための新聞記事さがし。（親しむ）	10
8　調べたことをまとめ	○資料から思ったこと、考え	自分のテーマに必要な	11

よう。	たことをまとめ、読み手に伝わるよう、工夫した新聞を作成させる。 ◇C‐ア、イ、ウ D‐ア、イ	新聞スクラップ（親しむ、学ぶ）読み手を意識した新聞作り （新聞で学ぶ・発信）	12 13 14 15
9　学年のみんなに調べてしたことを伝えよう。	○学年集会で自分たちが調べてきたことを発表させる。 ◇D‐ア	新聞形式による発表 （発信）	16
10　１年間の総合的な学習を振り返ろう。	○各自の学習の歩みを振り返らせ、次年度への見通しを持たせる。 ◇B‐イ	次年度に向けての新聞スクラップの継続 （親しむ、学ぶ）	17

（４）本時の活動

①本時の主眼

フィディアさんに関わるテーマの調査活動をグループ毎に分かれて開始した生徒たちが、各自の想いやグループの想いを伝え合う場面で、どのように表現したら自分たちの想いが聞き手に伝わるかを新聞を参考にしたり班の仲間と話し合うことを通して、調査のまとめへの見通しを持ち、お互いに学びあうことのよさに気付くことができる。

②本時の展開

	学習活動と予想される生徒の反応	支援・☆評価	時	ＮＩＥの視点
導入	１　前時の学習カードを振り返り、テーマに関する自分の想いをグループ内で発表しあう。 ・差別ということがとてもひどいということが実感できたな ・タンザニアという国についてもっと知りたいな。 ・差別はいけないのはわかっているけど、どうしたらなくなるのか知りたいな。 本時の課題 **グループのテーマと表現方法を決めだそう。**	１今までどんな想いを持ってテーマを調べてきたか、各自の想いをグループ内で発表させる。 ☆自分の想いを再確認することができたか。	5	
	２　自分たちのグループの想いをまとめ、全体に発表する。 ・僕たちの班はフィデアさんのことをもっとみんなに知ってもらうことになった。	２メモされた各自の想いの共通点や相違点を整理させながら、グループのテーマを一つにま	5	

展	・タンザニアにはどうしてボランティアがないのか調べたいな。 ・差別をなくすにはみんなの協力が必要だからどういうことをしていけばいいか調べたい。	とめさせ、発表させる。		
開	3　グループの想いをどういう方法で学年のみんなに伝えるのか、新聞記事を参考にしながらグループ毎に話し合い、発表する。 ・やっぱり新聞みたいに見出しを考えて一番伝えたいフィディアさんのことを一面にもっていった方が伝わるかな。 ・広告みたいに写真や絵を使って差別の実情を訴えたらどうかな。 ・みんな漫画が好きだから、4コマ漫画でタンザニアの人のやさしさが伝わったらいいな。	3 新聞をつなげたものを提示し、様々な表現方法があることに着目させる。 新聞を自由に持って行かせ、自分が一番伝えたいことをどう表現するかを書かせる。 各グループ毎に話し合わせ、考えがまとまった班から発表させる。	30	新聞記事や広告から読み手にとって有効な伝え方を考える。 （親しむ、学ぶ） 新聞に見られる様々な表現方法に触れる。 （親しむ、学ぶ）
ま と め	4　今日の授業で学んだことを学習カードに書き、発表する。 ・自分と違う考えがたくさん出されていて、とても参考になったなあ。 ・自分が気が付かないことに友達は気付いていてすごいなあと思った。 ・これからももっといろいろな人の意見を聞きたいな。	4 今日の授業での級友との関わり合いがどうだったか振り返らせ、各班の代表者に発表させる。 発問：今日の発表で友達からどんなことが学べたかな？ ☆お互いに学びあうことのことのよさに気付いたか。	10	

③評価（授業記録から）

	教師の指導	生徒の活動	時
導入	○２枚のプリントを確認。伝えたいことを各自まとめたが、赤ペンでアドバイスを入れたので、もう一度見直すこと。	・前時の学習カードに書かれた、教師のアドバイスを読む。	
	○カード①に自分の思い、これだということを書くこと。	・差別やけんかをなくすことを大切にしたい ・障害は、自分が抱えていたかもしれない問題だ ・障害は、抱えたくて抱えたわけではないと言うこと	
	○グループ内で困っていることはあるか。	・特にはない ・話し合いに参加してくれない人がいる	12
展開	○グループのテーマを決めるための話し合いをする。 　みんなで書いたことを発表し、グループで伝えたいことを決め出す。 　グループ長が司会をする。大切なことを確認して話し合いにはいること。	A グループ 司会：まず、一人ずつ発表して、その後に全部合わせた思いを発表しよう。 ・みんな同じ人だから、少しのちがいで差別したり、いじめをしたりしない。 　もごもご… ・差別やケンカを無くすことを大切にしたい。 ・障害について ・みんな同じ人間ということを知ってもらう。 司会：一つにまとめたいので、考えて下さい。 （３分後、一人ずつ発表） 司会：じゃ、この中から、グループの思いを決めたいと思います。手を挙げて下さい。 司会：決まりました。 「わがグループの思い」 　この世界中にいる人、みんな大切な命を持っているから、どんな重い障害を持っている人がいても、絶対、いじめ、差別をしないで命を大切にする B グループ ・タンザニアの生活について知りたい。 ・タンザニアと日本のちがい ・タンザニアとの生活や人々の考え方の違いということかな？ ・そう、それだ。 ・具体的には？ ・(女子を中心にフリートーク。各自よく意見を出す) ・フィディアさんは、タンザニアのどの辺にいる	

		んだっけ？ ・いろいろ出てくるけど、一枚にまとめられるかな。	
	○まとまらなくてもいいから班の今の意見として発表して下さい。		18
	○各グループのテーマを発表して下さい。発表者に顔を向けて。	A班：フィディアさん　命の大切さ B班：タンザニア　日本とタンザニアの違い。タンザニア国内のことも C班：日本における差別　日本国内の差別やいじめをなくすために。 D班：外国における差別　見た目での差別を無くしたい。 E班：外国人差別　相手の気持ちを考えて接する。 F班：僕たち、私たちにできること　差別、平等、	10
	○みんなの調べていることを新聞にして発表したい。また、新聞からも学んで欲しい。 　一日分の新聞をつなげてきた。どこまで行くと思うか。 　これだけの情報量があります。新聞作りのためのヒントや参考になるものが、この新聞の中にたくさんある。写真や表、差別の歴史年表など表現方法も参考にしたい	・一番後ろ ・教室一周	5
ま と め	○グループ内で話し合いをした感想を書いて下さい ○何人かの人に発表してもらいます	・司会をやっていてうめく進められなかったとき、友だちが手伝ってくれた。うれしかったし、すごいと思いました。 ・どのグループも上手にみんなの意見をまとめていてすごいと思った。自分の思いのところでちゃんと書いてあって、すごかった。 ・進んで班長が発表してくれてよかった。 ・「差別は、あってはならない」という意見があってすごいと思った。 ・しっかりと話し合いができてよかった。	
	○みんなが、フィディアさんと出会って、人について考え、勉強するようになりました。		5

６　研究のまとめ

渋澤先生からの指導

〇グループの話し合いの持ち方について

・授業の中で、グループ活動が成立していたのはＢグループだけだった。静かな雰囲気の中で、Ｂグループの話し合いは目立っていた。

・他のグループについては、不十分であったが、その理由として、教師の指示が不明確だったことと、司会進行のトレーニングができていないことが挙げられる。

・グループ活動をするにあたっては、リーダーの育成が大切である。

〇新聞作り（発信すること）について

・調べる活動を十分にし、書きたいことを十分に貯めてから発信を考えた方がよい。

・自分が何を言えるのか、言いたいのか整理した上で、新聞形式の発信につなげていくこと。

・新聞形式で発表する形式もよいが、事実認識をする上で、新聞を活用できるよい。

・偏見や差別について、どれくらい社会で扱われているかー過去、現在で切り抜きなどしながら情報を集めていく。

〇指導案について

・カリキュラムの構想は、ＮＩＥの研究の視点ではとてもよい。新聞は、本来大人対象であるので、教材化には苦労がある。あまり無理をすると、逆に拒否される。もっと親しめる対策を（関心の薄い人に親しんでもらえるよう）。

〇これからの取り組みについて

・新聞活用の日常化

　社会科の得意な生徒は、社会と関連した記事をみんなに広めるような作業をする。それぞれの教科の立場で、日常的に取り組めるとよい。それぞれの生徒の得意分野を生かす。

・東部中の世論を発信する

　アメリカの大統領選について、東部中学校ではどういう意識なのか、世論調査を行い、それを発信するような活動をするのもよい。

・中学生らしく、新聞に親しんでいく計画を。無理なく活用できるとよい。

７　研究の成果と課題

・フィディアさんとの出会いをきっかけに、ダイナミックな単元の展開をしながら活動できたことはよかった。生徒たちが、学んだことを強く人に伝えたい（発信したい）と考えるようになり、３学期には、地域の文化ホール（ノルテ長野）で、新聞形式で発信することができた。

・グループ活動では、リーダーの育成や話し合いのルールの確立が大切である。場面設定も含めて検討していきたい。

・生徒自身が、より相手に伝えたという気持ちになれるよう。情報を得るための手段としての新聞活用を考える必要がある。

・日常的に新聞に親しめるよう、教科の枠を超えて新聞の活用を考えたい。（各教科の実践を集めたので、参考にしたい）

・研究スタート時は、ＮＩＥの研究なのか、総合の研究なのか迷いがあり、まず、新聞活用を考えてしまった経緯がある。新聞はあくまで、目的を達成するための手段であるので、そのスタンスを崩さず考えたい。総合では、新聞活用を含めた年間カリキュラムを３学期に検討し、作成することができた。そのカリキュラムの上に立って、効果的な新聞活用のあり方を研究していきたい。